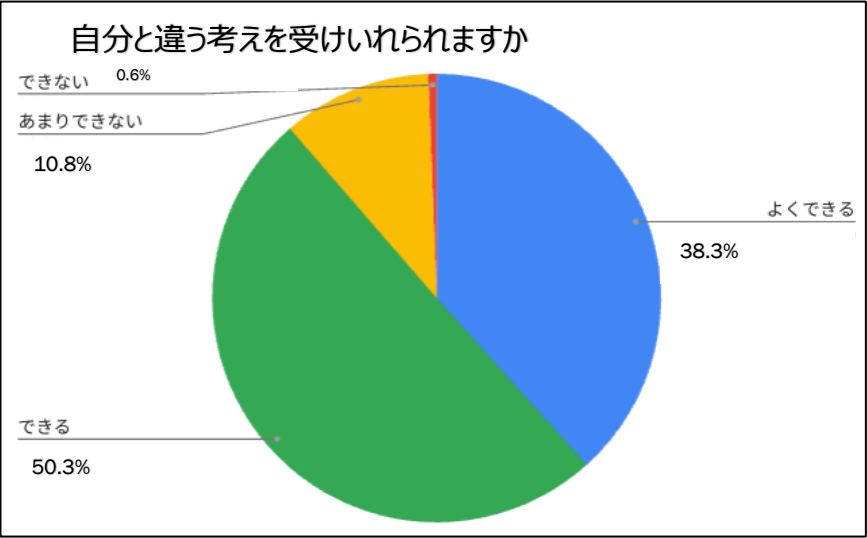
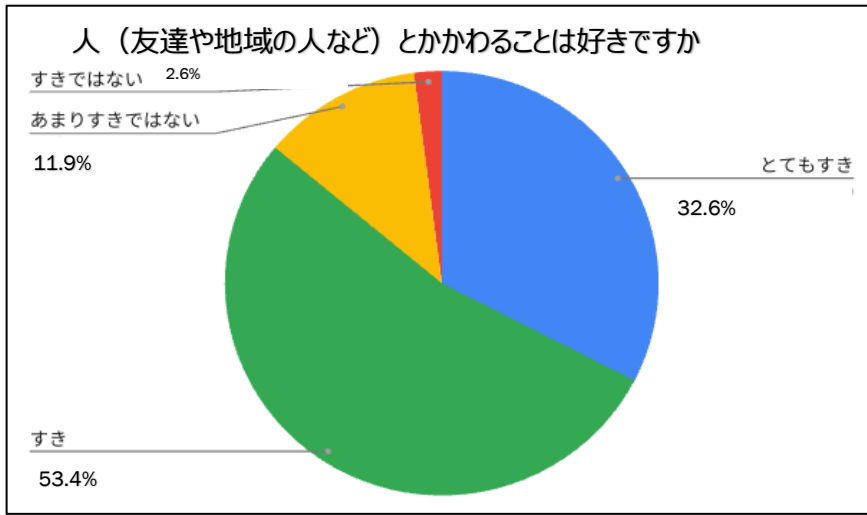


# 本校の児童の変容



本校では、学級会などで自分と違う考えを概ね受け入れることができると回答した児童が8割程度います。しかし、2割程の児童は、苦手としていることも分かります。そこで、各学年の実践として、「学級会後の教師による称賛などによる価値付け」や「改善案が見える板書」など前向きに考えることができるような手立てを施しています。児童の実態に応じて学習環境を整えられるように、校内で研修会を開き、実践できる体制をつくっています。



「人（友達や地域の人など）とかかわることがとても好き」「好き」と回答した児童が、8割以上います。しかし、2割程の児童は、好きではないと考えています。そこで、各学年の実践として、「学級会で決めた学級で遊ぶ時間の確保」や「全校でのなかよし班遠足」を行ったり、社会科や総合的な学習の時間を通して、地域の方々とかかわり合う場面を、年間を通じて設けたり、かかわることの楽しさを感じられるように工夫しています。特別活動やその他の学習を通して、友達や地域の方と積極的にかかわることで、かかわることの楽しさを感じ、「学校が楽しい」「小平市が大好き」となることを目標にしています。

※アンケートは、本校1～6年生を対象に令和7年2月実施したものです。

# 令和6年度の取組

講師の先生をお招きして、研究授業を各学年で1回ずつ行いました。

| R6年6月8日（土）                                        |
|---------------------------------------------------|
| 特別活動の日 学級会公開授業（全学級）                               |
| R6年10月2日（水）                                       |
| 【研究授業】 2年1組 議題「運動会を盛り上げよう」<br>講師：伊藤仁美先生           |
| R6年10月2日（水）                                       |
| 【研究授業】 3年1組 議題「3年1組いいところ発見パーティーを開こう」<br>講師：和田翔太先生 |
| R6年11月28日（木）                                      |
| 【研究授業】 4年4組 議題「2学期お疲れ様会を開こう」<br>講師：和田翔太先生         |
| R6年11月28日（木）                                      |
| 【研究授業】 5年3組 議題「5年3組レベルアップ作戦を考えよう」<br>講師：伊藤仁美先生    |
| R6年1月27日（月）                                       |
| 【研究授業】 1年2組 議題「みんなが楽しく遊べる工夫を考えよう」<br>講師：伊藤仁美先生    |
| R6年1月27日（月）                                       |
| 【研究授業】 6年3組 議題「音楽会がんばろうパーティーを開こう」<br>講師：和田翔太先生    |

改善に向けたご指導（一部）

## 【低学年】

- 児童の「やってみたい」からのスタートで議題を決定するなど、児童の声を生かして進めることのできる工夫をすること。
- 児童が一生懸命話し合い、自分達で決めたことに生き生き取り組む姿を大切にすること。
- 「みんなでやると楽しい」が当たり前の感覚になっていると、学年が上がっても自主的な意見が出てきます。子ども達がみんなでやろうという気持ちを継続するための支援を行うこと。

## 【中学年】

- 賛成意見は数ではないので、それぞれの意見のよさを生かしていくことが大事です。比べ合いながらまとめていくことができる支援をすること。
- 「私は」「ぼくは」が多かったが「私も」「ぼくも」など、友達の考えを生かして意見が伝えられるとよい。そのためには、他教科とも関連付けながら指導すること。
- 心配意見→改善策ばかりの話合いになったとき、教師が切り替える助言をすることが必要となる。「反対は賛成の否定ではない!」ということを意識させること。

## 【高学年】

- 「実践をるところまでが特別活動」このサイクルを繰り返し、自分達で決めたことを自分達でやった、できた実感できる工夫をすること。
- 「今〇〇、だから〇〇をして、〇〇になりたい」に当てはめて考えると、今現在の学級の状況を話合う形になる。こどもたちが、今、何をしたいのかを把握することが「自分事」として捉えることにつながる。
- 個人のめあてをもって学級会に向かうことが重要である。めあてを必ずもたせること。

# 特別活動を通して 「かかわる力」を育てる

～主体的に考え、表現できる子の育成～



## 校長あいさつ

本年度、令和6年度 小平市教育委員会特色ある教育活動推進校の指定を受けて、特別活動について共同研究を進めてまいりました。本市の掲げるめざす人間像「自立」「貢献」「共生」を踏まえ、本校では「かかわる力」の育成にフォーカスして教育活動を進めてまいりました。その要となる学習活動が「特別活動」です。主に「学級会」の充実、各学年の実行委員会の充実、委員会活動、クラブ活動の充実、教員相互の学びと実践の充実を図るべく実践を積み重ねました。

日々の実践の中で試行錯誤しながらの共同研究は、実りが多く、まさに十小のこどもたちと一緒に学ぶ大変貴重な1年となりました。

本校の本研究に対し、ご支援を賜りました小平市教育委員会の皆様、きめ細やかなご指導・ご助言を賜りました小平市立小平第三小学校 主任教諭 伊藤仁美 先生、主任教諭 和田翔太 先生に、深く感謝申し上げます。

令和7年度も引き続き、特別活動を要とした実践的な研究を進めてまいります。

## 研究の概要

### 【目指す児童像】

課題を自分事として考えられる子  
思いを表現し、友達とかかわりながら成長する子

### 【研究主題】

特別活動を通して「かかわる力」を育てる  
～主体的に考え、表現できる子の育成～

### 【低学年】

主体的に考えたい  
なる議題の設定

### 【中学年】

自分の考えを表現す  
るための事前活動の  
充実と合意形成

### 【高学年】

主体的に話し合うた  
めの板書の工夫と  
学級会ブックの活用

令和6年度、本校では、「特別活動を通して『かかわる力』を育てる」ことを研究主題として設定し、校内研究として取り組みました。特に「学級会」での話し合い活動を充実させることで、自分・友達・地域・もの等とかかわる力を育成することを目標に、全教職員で研究しました。

低・中・高学年ブロックごとに、児童の発達段階を考慮し、発展的な取り組みになるように手立てを検討すると同時に、全学年共通の学級会グッズや司会台本を作成し、目指す児童像に系統立てて迫っていけるようにしました。

豊かなかかわりを通して、一人一人が自分のよさに気付き、よりよい集団生活の中で成長していくことを目指しています。